

令和5年度（2023年度）教育警察常任委員会管内視察の概要

- 1 視察日 令和5年（2023年）9月7日（木）
- 2 視察者 教育警察常任委員会（6名）
末松直洋（委員長）、高島和男、城戸淳、本田雄三、
亀田英雄、齋藤陽子

3 視察の概要

（1）松橋高等学校

松橋高等学校は、「クリエイティブハイスクール（地域課題解決型）」に指定されており、「松高フードコート」を掲げ、宇城市や支援企業、地元生産者等と連携・協働し、多様な地元食材を活用して研究・開発した食品やメニュー等の提案を行っている。



令和5年度からは、新たに「普通科地域創造コース」を新設し、松橋高等学校独自の科目「宇城防災」、地震や豪雨災害等から地域社会の人々の命を守る人材育成に取り組むとともに、令和4年7月に創部したDX部では、eスポーツ大会への出場やスマートフォン教室を通じた地域交流、防犯啓発動画作成など防犯に役立つボランティア等にも取り組んでいる。

今回の視察では、そうした松橋高等学校の取組や卒業後の進路等について説明を受けた。

松橋高等学校から、松高フードコートやDX部の活動など、地域と連携した活動を積極的に行うことで、地域の企業から「松高ブランド」として認知され、卒業生が非常に高い評価を得ているとの説明があった。

（2）松橋西支援学校高等部

松橋西支援学校高等部は、近年の児童生徒数の増加に伴う教室不足に対応するため、「県立特別支援学校整備計画」に基づき、令和5年4月に高等部が松橋高等学校内に移転した。

新たな高等部の姿として、卒業後の社会的自立に向け、作業学習や産業現場等での実習を充実させるとともに、松橋高



校の生徒達との交流を通じて、互いに認め合い支え合う関係を築くことを目標としている。

今回の視察では、知的障がいのある生徒の学び等について説明を受け、作業活動に取り組む生徒の様子を見学した。

松橋西支援学校高等部から、当初は松橋高校内への移転という環境の変化への生徒の不安もあったが、現在では、松橋高校の様々な施設を活用できるようになり、松橋高校の生徒との交流を通じ学習の幅が広がるなど、移転によるメリットが大きいとの説明があった。

(3) 上天草警察署

上天草警察署は、耐震安全性の向上及び老朽・狭隘化の解消を図るため、現地拡張の上、令和3年度から建て替えに着手し、令和5年3月に庁舎棟が完成した。

新庁舎は、耐震性能を通常基準の1.5倍とし、発電用の設備や通信機械室等を2階に設置するなどの浸水対策を講じるとともに、運転免許更新等で住民の利用が多い1階には、車椅子対応のカウンターや授乳室を設けるなど、利便性や機能性の向上を図っている。

今回の視察では、同署を取り巻く治安上の課題や新庁舎の運用によってもたらされた効果等について説明を受けた。

上天草警察署から、新庁舎は、係ごとに部屋が仕切られていないオープンフロアになっており、1階の受付、交通関係の窓口、落とし物窓口を集約化し、分かりやすく移動しやすいレイアウトになっていることで、住民の評価も高い。また、庁舎3階が職員宿舎となっていることで、緊急時でも円滑かつ迅速な対応が可能となるなど、新庁舎運用による効果は大きいとの説明があった。

